

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

I 学力調査の結果【中学校・義務教育学校後期課程】

1 教科に関する調査結果（平均正答率）

	国語	数学	英語
全国	69.8	51.0	45.6
広島県	70	49	43
府中市	68	46	41
自校	72	61	47

2 調査結果にみられる特徴（相当数の生徒ができています）

【国語】

- ・「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」問題〔1四〕
（正答率：96.2% 全国平均：82.5%と比較して+13.7p）
- ・「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問題〔4一〕
（正答率：96.2% 全国平均：82.5%と比較して+13.7p）

【数学】

- ・「問場面における考察の対象を明確に捉える」問題〔6(1)〕
（正答率：92.3% 全国平均：88.9%と比較して+3.4p）
- ・「自然数の事象を理解している」問題〔1〕
（正答率：84.6% 全国平均：42.1%と比較して+42.5p）

【英語】

- ・「状況を描写する英語を聞き、情報を正確に聞き取る」問題〔1(1)〕
（正答率：88.5% 全国平均：79.0%と比較して+9.5p）
- ・『「事実・情報を伝える」と『「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読む』問題〔5(2)〕
（正答率：73.1% 全国平均：64.5%と比較して+8.6p）

3 調査結果にみられる課題及びその課題に対する改善策

【国語】

課題	課題に対する改善策
「意見と根拠など情報と情報との関係について理解している」問題〔1二〕 （正答率：50.0% 全国平均：65.1%と比較して-15.1p）	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について読み取ることに課題がある。説明的な文章の中でも、特に関連情報の読み取りが求められる文章を取り扱い、読み取りの際の着目点や方法を指導するとともに、レポートを書く際に目的や場面等に応じて資料を集め、必要な情報を取り出して整理する活動を行う。
・「文脈に即して漢字を正しく書く」問題〔3二〕 （正答率：38.5% 全国平均：43.9%と比較	新出漢字のテストだけでなく、日常生活や教科の学習に関連する文を用いた漢字テストを行い、定着を図る。また、誤字にな

して-5.4p)	りやすい文を抽出したものを重点的に扱い、漢字テストも継続して行っていく。
----------	--------------------------------------

【数学】

課題	課題に対する改善策
「四分位範囲の意味を理解している」問題〔7(1)〕 (正答率：61.5% 全国平均：65.7%と比較して-4.2p)	四分位範囲の意味の理解が不十分である。四分位範囲や範囲などの数学用語や意味を繰り返し取り上げ、数学用語を活用して説明する活動を授業に取り入れていく。6年生からの数学用語も復習できる練習問題に取り組みせ、定着を図る機会を授業内に設定する。
「反比例の意味を理解している」問題〔4〕 (正答率：42.3% 全国平均：42.8%と比較して-0.5p)	反比例の表、式、グラフを関連付けて捉えさせ、変化や対応の特徴を見だし、 x の値と y の値の積は一定で比例定数に等しいことを理解させるように授業構成をしていく。定期試験・単元テスト等でも出題し、授業改善の効果測定を行う。

【英語】

課題	課題に対する改善策
「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る」問題〔1(3)〕 (正答率：34.6% 全国平均：61.1%と比較して-26.5p)	聞き取り問題の内容において、目的や場面、状況等の情報の収集・精選の仕方を意識して取り組みせる。授業では定期的に多様な場面設定の問題に取り組みせたり、ALTを活用し、スクリプトを変更した問題を作成したりする等、聞き取り問題に取り組み機会を増やす。さらに、単元テスト等で類似問題を出題し、定着状況を把握する。
「相手の行動を促す」という言葉の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く」問題〔9(2)〕 (正答率：19.2% 全国平均：29.0%と比較して-9.8p)	授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、相手との関係性等の設定を明確にし、それらの状況に応じた表現を学習できるように目標を設定していく。また、文構造や文法事項、言語の働きなどの練習問題を解くことで反復学習させ、正しい語や語順で、伝えたいことについて正しく書けるようにしていく。

4 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目	
<ul style="list-style-type: none"> • 普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか (4日以上：自校 80.7%、全国 59.1%) • 1、2年のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか (自校 73.1%、全国 63.8%) • 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか (自校 80.8%、全国 72.6%) 	

5 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	改善のポイント
<ul style="list-style-type: none"> • 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか (自校 57.7%、全国 77.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業で相手意識をもった発表の場を計画的に仕組み、他者を受け入れて共感する力や、異なる意見を取り入れ自らの考えを深めるような力を育てていく。 • 日々の取組みの過程を、個人、学級全体として振り返るとともに、地域、保護者と交流しながら個人にフィードバックさせていくことで、新たな課題解決に向けて意欲的に行動しようとする姿勢を育てていく。
<ul style="list-style-type: none"> • 自分には、よいところがあると思いますか (自校 57.7%、全国 80.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の指導方法として、友達と関わりながら学び学習成果を自ら実感できる工夫をおこない、「わからなかったことが、わかった。」ということを実感させる授業づくりを仕組んでいく。 • 1年生から9年生のキャリア教育の中で、地域の人たちと関わりながら学ぶ体験活動を通して、達成感もてる体験活動を仕組んでいく。 • 基本的な生活習慣（食事、睡眠等）や家族との会話、役割、楽しみの共有など家族の一員として大切に扱われているといった実感を持つことができるように、家庭に対して学級懇談会や三者懇談会等を通して、協力していただくよう発信していく。